

# 変革、創造、挑戦

私たちは、包装容器の変革と創造に挑戦し、人と社会の未来へ貢献します。

東罐興業は、1943年の創業以来、紙とプラスチックを素材とした包装容器メーカーとして数多くの製品を世の中に送り出してきました。

現代社会は、食の安全・安心への要求の高まり、持続可能な循環型社会の実現、少子高齢化社会への対応など、様々な課題を抱えています。

包装容器にもそれらの課題に対応できるような高い品質や環境への配慮が求められています。

私たちは、お客様の幅広いご意見やご要望にお応えし、印刷や形状の美しさに加え、耐熱性、保存性、密封性、透明性、利便性（開けやすさ、持ちやすさ、扱いやすさ）などの機能や付加価値を併せ持つ包装容器となるように改良や開発を続け、また最高の品質を適正な価格でご提供できるように努めてまいりました。

これからも包装容器メーカーとしての自覚と責任のもと、製品のライフサイクル（原材料の調達から生産、輸送、使用時、使用後、廃棄）における課題や持続可能な開発目標（SDGs）に掲げられている様々な課題などにつきましても積極的に取り組み、社会的責任を果たしてまいります。

「やめることから始めてみよう！」

昨年、当社のありたい姿のひとつとして「人がよろこびとともに成長し働きたいと思える会社」を掲げました。

私たちは、市場要求の変化や技術革新、社会の枠組みの変化、法規制の強化などによって日々新しい取り組みに対応しています。これは会社が生き残る上ではあたりまえ

であり、とても大切なことですが、新しい仕事に加わるだけで日々の作業に余裕がなくなりますし、個人の時間も確保できなくなります。それが続くと仕事に追われ、仕事にやりがいを感じられなくなり、仕事に対する「よろこび」も自分自身の「成長」も後回しになってしまいます。

“やめれば問題が起こるかもしれない” “やめる理由が説明できない” “やめるという考えがなかった” “何ごとにも時間がない” などの理由から、今まで続けてきた仕事（作業）をなかなか見直そうとしませんが、「人がよろこびとともに成長し働きたいと思える会社」を実現するためには、大胆に仕事を見つめ直し「仕事の新陳代謝」を実行することが重要だと考えます。

政府が進める「働き方改革」の課題に挙げられている長時間労働の改善による労働生産性の向上、子育てや介護と仕事を両立させる手段の検討などにも取り組みを始めております。

この環境・社会報告書では、環境、品質保証体制、コーポレートガバナンス、リスク・コンプライアンス活動、社会とのかかわり、人事制度・職場環境などについて、私たちのCSR活動の一端をご紹介します。こうした活動を通じて、今後も全てのステークホルダーに対して責任を持ち、成長を続ける会社を目指してまいります。

東罐興業株式会社  
代表取締役社長

高崎 精康

